

|      |   |       |  |
|------|---|-------|--|
| 項目名  | 行政評価システムの導入   |       |  |
| 大綱要旨 | 市民志向・成果志向型行政経営の実現のため、業務棚卸手法による行政評価システムを導入する。  |       |  |
| 改革内容 | <p>市で行っている全業務について、その目的、手段、達成目標を明らかにする。そして、業務目的毎に成果指標（アウトカム指標）を設定し、市民にとってどのような社会的成果があったかという需要側（市民の視点）からの達成状況評価を行う。</p> <p>また、業務目的毎の評価結果をもとに、業務執行状況の分析を行い、効率性・有効性を検証することで、問題を抱える作戦（施策・事務事業等）への重点的な対応や、期待する成果を出すために、障害に対し新たな方策を講じる等の行政経営改善を図る。</p> |       |  |
| 改革効果 | <p>業務棚卸表により、任務目的と、その目的を達成するために必要な手段、達成目標が明確になり、行政活動資源の有効かつ効率的な活用を行う。また、市民の視点に立った需要側尺度としてのアウトカム指標を評価の対象とすることで、市民サイドに立ったサービスの提供が必要不可欠となり、市民志向・成果志向の行政経営実現に資する。</p> <p>さらに、個々の職員が、自らの業務に対し、市民サイドに立った目的意識、改善意識を持って取り組むことを常態とするなど、市職員全体の意識改革を図る。</p> |       |  |
| 実施計画 | 年度  | 着手・実施 | 詳細内容   |
|      | 14年度  |       |  |
|      | 15年度  | 実施    | <p>全庁各業務の業務棚卸表を作成し、プロジェクトチームによる目的体系の構成を行い、業務目的体系の現状とあるべき姿、業務目的毎に設定した成果指標の達成状況等から、行政評価を実施する。</p> <p>また、行政評価システムの運用に必要なとなるマネジメント機能の向上を目的とし、管理職等を対象に戦略形成、方針管理研修を実施する。</p> |
|      | 16年度  |       | <p>整備された業務目的体系をもとに、予算査定、組織改正等の既存システムへ反映させるためのシステム構築を行う。</p>  |
|      | 17年度  |       | <p>これまでの結果をフィードバックしながら、システムをよりよいものとするため改善していく。</p>   |